

2019年 4月29日 氏名 殿塚 裕紀

【JHF 活動履歴】
パラグライダー教員 2004～
パラグライダー教員検定員 2010～
理事2任期 2013～2014年度、2017～2018年度
ハング・パラ振興委員会 2012年度

【JHF 定款への理解】（どれかひとつをマルで囲んでください）

熟知している ・ ある程度理解している ・ 一通り目を通した ・ これから目を通す

【立候補意思表明】 公益社団法人 JHF の活動に関するご自身の考え。

その際に下記3点を含めて下さい。

(1)今の JHF の活動で課題と考えている事 (2) 今後の JHF が活動していくべきと考える事 (3) ご自分が理事として実践していきたい事

この度、JHFの理事に立候補させていただいた殿塚です。
過去に2期理事を務めさせていただき、立候補は3回目となります。
JHFの未来を見据えて、より良い運営ができるよう尽力してまいります。

(1)今のJHFの活動で課題と考えている事
主に高齢化と愛好者数の減少。

■高齢化：2018年10月の統計によると、JHFフライヤー会員の年代別比率は60代が28%、70代以上が10%と、3人に1人が60歳以上であることが見受けられます。50代の方が29%ですので、今後もシニアフライヤー比率が増えていくことが予想されます。

■愛好者数の減少：2003年度には約2万人だったフライヤー会員数が、2018年度には7,300人まで減少しました。近年も緩い減少を続けています。

(2) 今後のJHFが活動していくべきと考える事
上記の課題を改善することです。

■高齢化対策について

現在約7,300名の会員の内、1割の720名が70歳以上です。判断力・身体能力は年齢とともに低下するのが一般的です。ご本人にも周囲にも、より一層の安全意識をもっていただくことが重要と考えます。
ハングのブラッシュアップセミナー等、すでに同様の取り組みが始まっていますが、今後さらに推し進めていく必要があると考えます。

■愛好者数の安定について

スカイスポーツだけでなくスキーやスキューバダイビングなど、他のレジャースポーツでも愛好者数は減少しています。これは日本の社会構造が原因と考えられ、いかんともしい難いものがあります。

しかし、諦めるわけにはいきません。私はJHFが教員を支援することにより、愛好者数の安定を図るべきと考えます。ハングパラを続けやすい環境を作る。新しく始めた方への窓口となる。どちらも主に教員が担っている事です。教員への支援を継続し

ていきます。

(3) ご自分が理事として実践していきたい事

公益社団法人の理事会で出来る事は限られています。その限られた中で「どのようにしたらより良い団体にできるか。」を考え実践していきます。積極的に情報を収集し、様々な視点から理事会の運営を変化させていきます。

また、この先は会員数が減少し、コンパクトな運営が必要になると考えています。10年後も連盟の役目を果たせるよう、準備をまいります。

微力ではございますが、ハングパラ業界のために尽力していく所存です。

以上、私の立候補意思表示とさせていただきます。何卒宜しくお願い致します。

※この立候補意思表示書は JHF ホームページに掲載し一般にも公開されます。

過去にあった800字制限はありません、また必要に応じて用紙を増やして下さい。

この用紙をプリントアウトし手書きでの提出、または上記項目を漏れなく網羅してテキストファイル(.txt)で提出することも可とします。詳しくは「立候補意思表示書の提出について」をお読みください。